

国立銀行法に関する書簡のやり取り

ロンドンの銀行家ロスチャイルド兄弟商会の長から、ニューヨーク・ウォール街3番地のイッケルハイマー・モートン・アンド・ヴァンデルグールド商会に宛てられた1836年2月5日付の書簡には以下のように記されている――

拝啓、合衆国オハイオ州某市にお住まいのジョン・シャーマンなる人物から手紙を頂戴しました。それには、貴国議会で最近成立した法律のもとで**国立銀行業務において見込まれる利益**について記され、同法の写しが同封されていました。**この法律はまちがいなく英国銀行協会によって立案された計画に基づいて起草されたもの**であり、制定されれば、全世界の銀行組織に大きな利益をもたらす法であるとして、同協会がアメリカの我々の友人に薦めたものであります。

シャーマン氏によれば、資本家がこの法に提示されているようなものとして金を蓄積する機会は今まではなかったとのことでした。**同法は国家経済の支配権をほぼ全面的に国立銀行に与えています**。シャーマン氏がおっしゃるように、この制度を理解できる少数の人は、そのメリットに関心を寄せるか、あるいはその恩恵をあてにするかのどちらかになるため、こうした人々からの反発はないと思われます。一方、**国民の大多数は、この制度から資本が引き出す莫大な利益を理解するだけの知能を持たないために、文句も言わずに、この重荷を背負うと思われます**。それも、この制度が彼らの利益に反するとは夢にも思わずに……敬具、ロスチャイルド商会

これに応じて、イッケルハイマー・モートン・アンド・ヴァンデルグールド商会は――

拝復、6月25日付のお手紙、頂戴いたしました。国立銀行法の条項のもとでアメリカにおける投資のメリット、恩恵について、オハイオ州のジョン・シャーマン殿から連絡があった由、拝読しました。

シャーマン殿は財産家として成功をおさめていらっしゃるだけあって、卓越した資質の主であります。そのような方でいらっしゃいますので、感情に左右されることなく、常に絶好の機会をうかがっていらっしゃいます。抜け目ない若き野心家と言えましよう。合衆国大統領の地位をも視野に入れ、すでに議員を勤めていらっしゃいます。(中略)

当地の国立銀行の組織およびその投資の特質とメリットにつきましても、同封の印刷物を参照されたく存じます。すなわち――

- *最低5人いれば、国立銀行会社を組織できる。
- *人口6000人以下の町でない限り、国立銀行の資本は100万ドル以下であってはならない。
- *それらは**個人利益のために組織された私企業であり、管理者、職員を独自に選出することができる**。
- *それらは州法の配下にはないが、合衆国議会によって定められた法に支配されることはあり得る。
- *それらは利益のために預金を受付、貸付けを行うことができる。債権、割引証券の売買など銀行業務一般を行うことができる。
- *100万ドル規模の国立銀行を始めるには、合衆国政府債をその金額(額面)分、購入しなければならない。合衆国債は現在、50%の割引購入が可能なので、100万ドル資本の銀行なら50万ドルで開業させることができる。購入された合衆国債は政府から国立銀行に供給される国立銀行通貨の担保として、ワシントンの合衆国財務省に預けなければならない。
- *合衆国政府はすべての債権に対して6%の利息を、半年ごとに現金で支払う。現在の債券価格では、政府から直接支払われる利息は投資額に対して金で12%であることが確認されよう。
- *合衆国は、前述の合衆国債を財務省に預けたらすぐ、その担保に基づいて、年利わずか1%で債権を預ける銀行に国家通貨を供給する。
- *政府によって印刷されるこの通貨は、国民には区別がつかないほどグリーンバックと酷似している。とはいえ、この通貨は銀行の支払い約束でしかない。

- *金の需要がきわめて大きいため、この金は銀行のカウンター越しにすぐさま、30日あるいは60日10%の利息で、12%ほどの通貨の利息が生み出されるよう、割り引いて貸し付けられる。
- *合衆国債の利息に、合衆国が保証する通貨の利息さらに銀行業務に伴う利息が加わると、28ないし33.3%ほどの利息が稼ぎとして銀行にもたらされる。
- *国立銀行は自由に通貨を増やしたり、抑えたりできるばかりか、当然ながら、その裁量で貸付けを認めたり渋ったりすることもできる。全国組織を有しているこの種の銀行は一致団結して貸付けを増額したり、制限したりできるため、行動を統一して貸付を拒めば、金融市場を金詰り状態にすることも、一週間あれば、いや、わずか一日のうちにも、全国の生産物の価格を下落させることも可能である。
- *国立銀行はその債権にも資本にも預金にも税金を支払う必要はない。

この一件はぜひともご内密に……敬具、イッケルハイマー・モートン・アンド・ヴァンデルグールド商会

このような書簡のやりとりに従って、アメリカの銀行家はまたしても前述の操作を実行に移した。そして貸付けの担保として彼らに残された財産、証券の抵当受け戻し権の喪失手続きによって、さらなる利益を積み上げた。大部分の借り主がその債務を果たせなくなるよう、一致団結して通貨供給を抑え、貸付けを制限することで、彼らは顧客を返済不能に陥らせたのである。

『闇の世界史』 p167~169